

玉ちやんの

スナックの 酔酔は



玉袋筋太郎(たまぶくろ・すじたる) お笑い芸人。1967年6月22日生まれ。東京都新宿区出身。86年にピートたけしに弟子入り。TBSラジオ「たまむすび」(金曜、TOKYO MX「ババいろタンデー」(火曜)にレギュラー出演中。2013年から一般社団法人全日本スナック連盟会長。著書に「スナックあるある この素晴らしい魅惑の世界」(講談社)、「スナックの歩き方」(イースト新書)など。

のです。

格闘家の山本KID徳郁さんが41歳の若さで亡くなりました。KIDさんはミュンヘン五輪のレスリング代表だった山本郁栄さんを父に持つ格闘技一族で育ちました。お父さまを神と仰ぎ、自ら「神の子」を名乗ったKIDさんが小さな体ながらも相手をたたきのめす姿はまさに野生そのもの。見る者を熱くさせるファイトスタイルが私は好きでした。

KIDさんとはさほど面識がなかった私ですが、一度ハワイで行われたK-1の大会で一緒になりました。写真。リング上の闘っている姿と違い、普段のKIDさんは本当に「気さくな兄ちゃん」感があり、その落差に「この人は天性の人をひきつける魅力を持つ男だ」と思ったも

フランクな会話の中でKIDさんのプライベートなお話になりました。「最近、タカを飼っててえ」と聞

いてあせんとしました。当時、私の家も鳥を飼っていましたが、愛玩の鳥セキセイインコでした。それなのにKIDさんは猛禽(もうぎん)類のタカを飼っているというのです。

かのマイク・タイソンがスキャンダルで没落する前の黄金時代に自宅でホワイトタイガーを飼っていたのは有名でしたが、強い男は強い動物を飼つものだと納得したのです。

KIDさんは続けます。「タカが

近所を飛んで帰ってくるとう、近所の迷惑なカラスとかハトが一切



いなくなつたつてえ、近所の人に感謝されちゃたりしてえ」。そんな無邪気な語り口のKIDさんのタカ匠ぶりエピソードにハワイの靑空の下、皆で笑いました。

KIDさんが「亡くなり、私が出演している生番組で生前の思い出を話してくれと言われたので、このエピソードを語り「KID選手! あなた本当にカッコよかったよ」とお別れの言葉を送りました。

私のこの発言を受けて、どこのスポーツ新聞がネットニュースで取り上げました。そのネットニュースを見ますと「KIDさんが屋上で闘ったら、近所のハトやカラスがいなくなつて近所の人

に感謝された」ようなニュースになっていてあきれ返ってしまいました。私の発音も悪かったのかもしれないが、私の「タカ飼つたら」を記者は「闘つたら」という痛恨の聞き取りミスをしたのです。

タカという猛禽類だからハトやカラスがいなくなったという良くできたお話です。そんな意味さえもくみ取れないで、「屋上でKIDさんが闘つていた」と受け取ったのです。誰が屋上で闘つて、ハトやカラスがいなくなるのでしょうか? このニュースを書いた人間は、天国のKIDさんに顔見世できるのでしょか?

スナックでも聞き間違いは多々あります。「ママ」と呼んだら「ママ」と「ナマ」を聞き間違えて生ビールが出てきたり、「生」といったら「なに玉ちゃん?」とナマとママを聞き間違えたりと、まあほほえましいものです。

「神の子」KIDさんを偲ぶ

改めて、タカのように天高く飛び立っていった山本KID徳郁さんのご冥福を祈ります。

(浅草キッド・玉袋筋太郎)